



人の波作戦で 交通安全を啓発

4月6日、春の全国交通安全運動に合わせ、レ・コード館前の国道で交通安全街頭啓発活動「人の波作戦」を実施しました。
交通安全推進委員会を中心に町内の関係団体から約140人が参加し、「みんなで守ろう交通ルール」などの横断幕や「スピードダウン」「シートベルト着用」の啓発旗でドライバーに交通安全を呼びかけました。



カゼノランナー号 地方GI制覇

4月8日、川崎競馬場で行われた第75回川崎記念（JpnI・ダート2100m）で、字美宇の株式会社ノースヒルズで生産されたカゼノランナー号が、力強い走りで見逃し、優勝しました。
福田洋志代表取締役社長は「牧場開設期にいた馬の子孫で大きなレースを勝つことができ、感慨深いものがあります」と笑顔で話しました。



商工会青年部が飾り付け 園庭を彩る鯉のぼり

4月21日、新冠町商工会青年部が、認定こども園ドレ・ミの敷地に鯉のぼりを飾り付けました。この取り組みは毎年恒例で、青年部が中心となって続けています。当初は20日に予定していましたが、津波警報の発表に伴い日程を変更しました。
当日は、商工会青年部員らが協力して鯉のぼりを掲げ、園庭を彩るその姿が春の訪れを感じさせました。



ポイ捨てごみを回収 クリーン運動に60人参加

町は4月23日、「マイタウンロード・クリーン運動」を実施しました。この運動は、地域環境の美化を目的に平成14年から役場職員を中心にやっており、今年も新冠町農業協同組合と新冠町商工会青年部の協力を得て実施しました。
当日は約60人が参加し、左岸道路脇に捨てられたごみを回収した結果、軽トラック2台分のごみが集まりました。

ヒグマを正しく知る 生涯学習講座に40人参加

4月25日、教育委員会はレ・コード館で生涯学習講座「ヒグマを知る」を開催しました。講師には、日高振興局環境生活課の林正敏係長を招き、ヒグマの生態や遭遇を避けるための注意点などについて講演が行われました。
講演では「ヒグマについて知り、正しく怖がるのが重要」としたうえで、目撃が朝夕に多いことや、山に入る際は単独行動を避けることなど、具体的な注意点が説明されました。
会場ではヒグマの毛皮などの展示も行われ、講演後には参加者が実物に触れながら理解を深めていました。



ま ち の 話 題 あ れ こ れ

AI活用のオンデマンド交通 実証から本格運行へ

町は5月1日、AIを活用したオンデマンドバス「メロディー号」の本格運行開始に合わせ、役場駐車場で出発式を行いました。



同バスはAI配車システムを採用し、乗合ルートをも最適化することで、コミュニティバスの課題解消と利便性向上を目的に昨年10月から実証運行を実施してきました。利用者の声を踏まえて見直し、本格運行に移行したものです。
式では町長あいさつの後、関係者が見守る中、運行車両が発行されました。通院や買い物など日常の移動手段として、利用拡大が期待されます。

新冠町放課後子ども教室 新1年生の受け入れを開始

町民センターで実施している放課後子ども教室では、4月14日から新1年生の受け入れが始まりました。
初日は、放課後子ども教室の担当職員と子どもたちを見守る安全管理委員を紹介し、教室のルールを説明しました。
最初は緊張していた1年生もいましたが次第に慣れ、学年の垣根を越えて楽しそうに遊ぶ姿が見られました。



鳥獣被害対策実施隊員に委嘱 48人が地域の安全を担う

4月20日、役場会議室で町鳥獣被害対策実施隊員に対し、山本町長から委嘱状が交付されました。委嘱は48人に行われ、このうちヒグマ被害対策実施隊員は21人です。
委嘱状交付後、山本町長は「町民を鳥獣被害から守るには皆さんの協力が不可欠です。普段の仕事の傍ら活動していただき、感謝しています」と述べ、協力を呼びかけました。



救急出動増加を見据え 消防職員6名を採用

日高中部消防組合消防署新冠支署は4月、消防職員6名を採用しました。日高自動車道の延伸や、今後予定されている日高徳洲会病院の移転に伴い、救急出動の増加が見込まれることへの対応です。
採用された6名は経歴もさまざまで、消防経験者も2名含まれています。現在は、消火や救急機器の取り扱い、出動先で行うロープ結索など、消防職員としての基本動作を学んでいます。



採用職員の内、一人は消防経験のある佐藤洗希さんは、「これまでの消防経験を生かし、一日でも早く新冠町民に信頼される消防職員になりたい」と話しました。
消防経験のある2名は5月から現場に出動しています。残る4名も消防学校での研修を経て現場で活躍する予定です。